

2 よさを生かし、伸長する支援の在り方

児童生徒のよさを見いだしたら、そのよさを生かし、伸長しなければならぬ。小学五年生の例を使って、よさをどのように見だし、そのよさを伸長するためにどのような支援をしたのか、その一部を紹介する。

(1) S男の生活の様子

S男は、五年生にしては言動が幼いためかわかれやすい。そのため、何事にも消極的である。

(2) 教師の支援方針

S男に適宜、激励や賞賛を与え、学級内における存在感を自他に自覚させ、自信の持てる行動ができるようにする。

(3) 教師の具体的支援

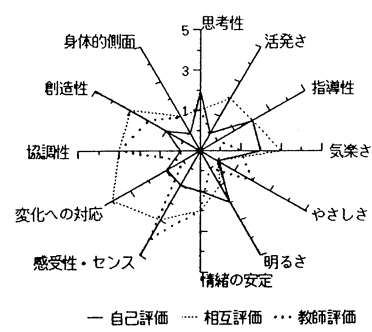
「聞いてねカード」に自分のよいところを書かせたら、自分の悪いところだけが書いてあった。そこで、担任は「相手の心のいたみが



分かってあげられるところ、友だちをゆるしてあげられるところや、運動をがんばるところがS君のすばらしいところですよ。」と聞いて

ねカードに記入し、S男に自分のよさに目を向けさせた。また、「レーダーグラフ」の結果から、友達には、S男には、「創造性・協調性・変化への対応・感受性・センス」などによさがあると認めていることを告げ、自分のよさに気付かせた。

(図-3 レーダーグラフ)



S男が授業中に挙手をした時は、優先的に指名し話の内容に共感や賞賛を与えたり、学習でつまづいている場合は、アドバイスや励ましを続けた。機会あるごとに学級内でも「振り返りカード」などで、S男のよさや努力を紹介し大いにほめた。

また、授業中や学校生活中での頑張りや新たに見いだしたS男のよさを、「学級通信」いいこと見つけたシリーズ」で家庭に知らせ保護者にもS男のよさを分かってもらい、S男が自信を持てるように心がけた。

その結果、日ごとにS男の生活に活気が加わり、学習面にも意欲的に取り組む

個を生かす学年・学級経営アイデア集 1日編

	朝の活動	授業中	休み・給食の時間
視点1 個の存在を認め	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の表情や健康状態を観察し、適切な言葉かけをする。 ○朝の会では一人一人に具体的に身近な目標を数名に発表させ、互いの存在を認める。 ○できる限り多くの子に、温かみのある言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の実態を確実に把握し、その子に合った発問内容を工夫する。 ○発表の機会を多くする。また、発表内容を生かすように努める。 ○少人数の班学習を取り入れ、どの子にも活躍の場があるようにする。 ○消極的な子にはノートや宿題の中からよい点を見いだしてほめ、励ます。 ○「君がいてよかったね」の視点から声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○触れ合いの時間をよさを認め、伸長する。 ○集団になじめない子は、教師と一緒に遊んだり、声をかけたりして存在を十分に認める。
視点2 個の	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介や相互紹介の場を設け、自他の違いを見付けるように心がける。 ○1日1 	<ul style="list-style-type: none"> ○机間指導を行い、個別に支援する。 ○ワークシートを用いるなどして、個別に指導を多くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中には見られない人間関係等を観察する。 ○個性の子に対して

3 個を生かす学年・学級経営アイデア集 一日編

個を生かす学級経営は、具体的にどうするのか、という見地から一日の活動に合わせ具体的な事例をまとめたものである。

姿が多くなってきた。以上は実践内容の一部である。